

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|------------------------|------------|-----------|
| 事業所番号 | 2690900143 | | |
| 法人名 | 株式会社ケア21 | | |
| 事業所名 | グループホームたのしい家伏見深草 ユニット2 | | |
| 所在地 | 京都市伏見区深草小久保町302 | | |
| 自己評価作成日 | 令和5年12月21日 | 評価結果市町村受理日 | 令和6年2月15日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigvoCd=2690900143-00&ServiceCd=320&Type=search |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | |
|-------|---|
| 評価機関名 | 一般社団法人京都ボランティア協会 |
| 所在地 | 〒600-8127京都市下京区西木屋町通上ノ口上る梅湊町83番地1「ひと・まち交流館京都」1階 |
| 訪問調査日 | 令和6年1月11日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

たのしい家伏見深草では経験年数を重ねた職員も多く在籍しており、そのスキルや経験則を若いスタッフにも派生し全体のスキルと極め細やかなケアを実施出来るように努めております。コロナの5類以降に伴い家族の面会の実施及び運営推進会議の再開を実現し今後は地域との交流の機会も復活させていければと考えております。施設内の日常においては楽しく過ごしていただけるよう、毎日体操で身体を動かし、月1回以上は必ずレクリエーションを実施させていただいております。毎月、フロア会議を実施し、各ご利用者様の状態、今後のケアについて話し合いをさせていただき、寄り添った支援を行っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホームたのしい家伏見深草は、株式会社ケア21により、2011年6月に開設されました。利用者定員は18名で、現在の入居者数15名、平均年齢は88.8歳、平均介護度は3.3です。利用者の高齢化や重度化が進み、約半数の方が車椅子での生活を余儀なくされています。その中でもラジオ体操やリハビリ体操を継続し、利用者に合わせてレクリエーションを取り入れ、穏やかな生活の場を提供しています。現管理者は昨年10月の異動で着任されています。「日々の介護における職員の心の持ちようとして、自分たちのやりやすいように業務を進めることがないように、自分の親だったらどうするか、利用者中心で考えてほしいと伝えています。」と述べています。職員の半数以上が5年以上の継続勤務者であり、また、75%以上が介護福祉士を取得しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|----|---|----|--|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○ |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ | 66 | 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○ |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31) ○ | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○ | | |

自己評価および外部評価結果

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 皆で施設ビジョンを作成し、全職員で取り組んでいます。採用面接時にも理念を実現し、達成してもらう同意を得ています。 | ケア21ビジョン「家庭的な生活～自分らしく、楽しく、生きる～」に沿い、生活向上リハビリ、認知症緩和、地域交流の3視点で、事業所の行動計画を立て事業展開している。カンファレンス時に支援の在り方を振り返り、期末にはリーダーが各職員の意見を集約して、管理者が「ビジョン評価シート」にまとめ、会社に提出している。今期は地域交流の再開に力点を置いて作成している。ボランティアとの交流の再開や、移動販売車に場所を提供することなど、検討中である。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している | 感染予防の観点より地域行事等への参加頻度は少なく、事業所開催のサロン会につきましても希薄化している状況です。 | 町内会に入会して、回覧板で地域の情報を得ている。コロナ流行前の諸取り組みは、まだ、開催できていない。近隣の小学校や保育園との交流の再開を検討中である。深草北部包括支援センター主催の「サロン交流会」(年2回開催)の予定が届いており、参加を予定している。春の行事と秋まつりにも、家族の参加を予定している。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 2ヵ月毎に地域のボランティア、民生委員、地域包括、予防推進センターの協力を得ながらサロン会を開催し、ご近所の方との交流の場をもっていました。コロナウイルス感染予防の為に中止しています。 | / | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 2ヵ月に1回、ご利用者様、ご家族、民生委員、地域包括支援センターの方に参加して頂き、サービスや運営の向上に活かせる意見交換をしています。 | 対面式での会議を、昨年10月から再開している。現在会議メンバーは、利用者、民生委員2名(内1名は家族でもある)、地域包括支援センター職員である。事業所からの報告には、利用者や職員の状況(異動報告もある)、行事、研修、事故、ヒヤリ・ハットなどがあり、意見交換もある。家族に会議の案内と議事録の送付をおこなっている。 | |

京都府 グループホームたのしい家伏見深草 ユニット2

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 運営上の報告や運営推進会議の議事録の提出等で行政の窓口へ訪問しています。行政主催の研修や連絡会にもできる限り参加しています。 | 運営推進会議の議事録は、1年間分をまとめて行政に送っている。事故報告書はそのつど報告に出向いている。必要時には相談や助言も得ている。深草北部包括支援センターから、勉強会のお誘いがあり参加している。以前に「深草介護サービス連絡会議」がWEBで開催されていたが、現在地域の諸会議の連絡はない。開催されれば参加を検討する予定である。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束に関する研修を本社より配信され、全職員が受講し、知識を身につけています。フロア入口は施錠していますが、外出希望の利用者様には、散歩に出るなど閉塞感のないように心掛けています。 | 「虐待・身体拘束適正化検討委員会」は、2か月ごとに開催している。議事録は「CAREログ」で職員に回覧している。会社からは、動画研修と小テストの実施があり、参加後に研修報告書を提出している。「虐待の芽チェックリスト」も年2回おこない、必要に合わせ管理者面談や本社での1日研修がある。利用者に声掛けをしっかりとおこない、馴れ合いや命令口調、語気が強まることはないよう注意しており、周知徹底出来ている。介護内容が利用者の負担にならないケアに留意している。フロア玄関に鍵はかかっているが、利用者から「外に出たい」との言動はない。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 虐待防止に関する研修を本社より配信され、全職員が受講しています。他施設での事案の検証や全職員がチェックリストを記入し、事業所での振り返りを行い早期発見と見過ごすことのないよう努めています。 | | |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 社内外の研修に参加し理解を深めています。現在、研修は開催されていません。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約時には、運営方針・金銭面・契約内容について詳細に説明し、理解・納得の頂けるように努めています。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------|-----|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 毎年、法人によるアンケート等で家族様から意見やご要望をお聞きしています。意見要望箱を玄関に設置し、会議等で情報共有し運営に反映させています。 | 会社が年1回、顧客満足度調査(アンケート)をおこない、結果は事業所にも報告がある。内容に、苦情や意見はなくお礼の言葉が多い。利用者、家族から聞き取った諸要望は、タブレット内の介護記録に書き、職員間で共有している。申し送りの必要なものは、管理日誌にも書き、引き継いでいる。また、レクリエーションや介護計画にも反映させている。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 会議等で施設の課題を共有し改善に取り組んでいます。年に1回従業員満足度調査のアンケートを実施し、定期的な個人面談を行い、意見を聞く時間をとっています。また研修報告書で気になるスタッフにも面談をさせていただいております。 | 管理者はフロア会議(月1回)や個人面談(年1回)で、職員からの諸意見を聞き取っているが、介護ソフト内の管理日誌(施設連絡とフロア連絡)でも、職員の意見、要望を受けている。フロア会議では、食器乾燥機やガス給湯器の修理依頼、イベントの予算を上げてほしいなどの意見を検討し対応している。職員の中には介護未経験者もいるが、チューター制度があり、リーダーを中心に育成に関わり、新人を育てることに歓迎の意思がある。技能段位認定制度もあり、本社研修室に向き実技と筆記テストを講師から受けている。介護福祉士の取得率は75%を超えている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 人事考課があり、職員個々の努力や実績を把握し給与に反映しています。段位認定制度で技術面での評価制度を設けています。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 新入社員は現在ZOOMにて2日間の研修を受け、その後も定期的に研修が実施されています。チューター制度を用いて、個々の能力を高めています。チームワークを大事にして経験を積んでいただいております。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 深草の事業者連絡会に参加し情報交換等の機会をもてるようにし、サービスの向上に取り組んでいます。 | | |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | アセスメントの情報を会議や資料を通じて職員間で共有し、安心して頂けるようなコミュニケーションをとるようにしています。 | | |

京都府 グループホームたのしい家伏見深草 ユニット2

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | アセスメント時に現在の状況を確認し、困っておられる事や不安を傾聴し、出来るだけ迅速に対応できるよう努めています。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 現状に対し、どのようなサービスが適しているか、ご本人、ご家族と話し合いながら必要なサービスを受けることができるよう努めています。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 食器洗いや洗濯物たたみのお手伝いやレクリエーションを通じ馴染みの関係を築いています。以前はコロナ対策で離れた場所での対応となりましたが現在は一緒にテーブルで楽しく食べています。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | ご本人様がどのように過ごされてきたのか等、家族、職員でカンファレンスを実施し、介護計画を作成し実践しています。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 継続できるものは支援しています。友人や知り合いの方にも、訪問して頂ける環境を整えています。面会に関しましても前日までの予約という形で可能と致しております。 | 現在、面会は自由になっている。実家に泊まりに行った方や遠方の墓参りを予定している方がおられる。家族以外にお弟子さんの面会もある。趣味の継続は難しい現状があるが、新聞の購読を続けている方、午前と午後の体操を継続する方もおられる。担当介護士は毎月、利用者の暮らしの様子や診療結果、連絡事項を「たのしい家伏見深草通信」に載せ、写真とともに家族に送付している。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 日々の日常生活の中で関係性を把握し、普段の食事・テーブル配置などのグループ分けを行い、互いに支え合えるような支援に努めています。またレクリエーション等でも参加の声掛けをさせていただいております。 | | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 継続的な関わりが必要な場合、連絡や相談の支援を行います。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | | |
|------------------------------------|------|--|---|---|--|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 本人の意向や希望の把握に努めています。ご家族様とも協力しながら、困難な状態であっても、表情や仕草等を観察し、出来る限り本人本位の支援となるようフロア会議で話し合い検討しています。 | 日々の関わりの中で聞きとった利用者の意向は、介護記録に書き、職員間で情報を共有している。2階ユニットの利用者は、一人で外出しようとする方はいないが、外出の希望はある。職員の外出や買い物に同行したり、希望で散歩もある。コミュニケーションが困難な方に「声でのはい、いいえやうなずき、表情など細かく観察しています。手を伸ばしてくる方の手でも、受け入れた手か、拒否の手か理解できます。」との、職員の言葉がある。 | | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | アセスメントシートを利用し、生活歴・馴染みの暮らし方を把握しています。 | | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 介護記録・管理日誌・看護記録、会議を通して、身心の状態の把握に努めています。 | | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 本人・家族様の意向を聴き取り、把握に努めています。必要に応じてカンファレンスを実施し、介護計画に反映しています。 | 毎月のフロア会議でカンファレンスを実施している。モニタリング(評価表使用)を3か月ごとにおこない、サービス担当者会議は6か月ごとで開催しているが、家族の参加は得ていない。電話で意向の確認はしており、サービス計画書に対する同意を受けている。 | サービス担当者会議に、家族の参加がありませんでした。利用者を共に支える観点からも、介護計画に特化した話し合いに家族の参加は必要です。ぜひ招待されることを期待します。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 介護記録、フロア会議でのカンファレンスで介護計画の見直しに活かしています。 | | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 医療連携での訪問看護・訪問歯科・福祉用具・ボランティア参加など、柔軟な対応を心掛けています。 | | | |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 地域資源の把握に努め、出来るだけ多くの選択肢を入居者様に提供できるよう努めています。 | | | |

京都府 グループホームたのしい家伏見深草 ユニット2

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 入居時に本人・家族様に主治医または、クリニックの説明をしています。月2回の定期往診があり、24時間の電話対応が可能。専門医等には家族様付き添いで受診に行っております。 | 入居時に説明を受け、全員がかかりつけ医を協力医療機関に変更し、月2回の訪問を受けている。内科と精神科以外の専門外来は、基本的には介護タクシーを使用して家族が同行している。家族が都合が悪い時は、職員が付き添っている。訪問看護も週1回受け、かかりつけ医と連携している。緊急時はスタッフから直接連絡し、24時間オンコール体制で指示を受けている。歯科は、週1回歯科医と歯科衛生士による口腔ケアを受け、必要に応じて往診も依頼している。訪問マッサージも希望者は受けており、歩行訓練もある。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 毎週火曜日は看護師に訪問頂き、必要に応じて適切な医療機関への連携・施設内での対応のアドバイスをいただいております。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 医療連携を通して、病院関係者・家族様と連携をとり、現状の把握・情報交換に努めています。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 入居時に終末期の方針を説明させて頂き、希望や方向性を聴き取らせていただいております。変化に応じてその都度、本人家族様・職員・主治医と話し合う機会をもち、終末期のあり方の方向性を決めています。 | 「重度化対応・終末期対応に係る指針」「急変時・終末期における医療等に関する意向確認書」を重要事項説明書に添付し、契約時に説明し、本人及び家族の同意・署名を得ている。入居後は本人の状態が悪化した時に再度丁寧に説明し、医師と訪問看護師、家族、職員での話し合いを持っている。毎年本社からのオンライン研修を受講している。経験のある職員も多いため。今年度も入院中の終末期の利用者が、退院を希望され受け入れた。住み慣れた環境で家族の付き添いのもと、看取りをおこなっている。最期の時は家族の面会制限もなく、夜間も付き添い可能である。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 応急手当や初期対応についてはフロア会議やカンファレンスなどで定期的に全職員に説明し実践できるように指導しています。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|--|--|------------------------------------|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 消防計画を作成し、年に2回消防署立ち合いのもと、消防訓練を実施しています | 地震・火災の消防訓練を昼夜想定で年2回おこなっている。水害は地域的に安全な場所だが、必要時は垂直方向に避難する予定である。今回は消防署の立ち合いがなかったが避難場所の確認をし、利用者は各フロアの避難口まで避難した。近隣住民への通知はしていない。次回は消防署も参加予定なので、チラシを配り、地域の方の参加を募る予定である。有事の際、事業所を地域の方に開放してはどうかとの意見も出ており、今後の検討課題として考えている。 | | |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 誤った声掛けには指導させていただいております。どのような声掛けがご利用者様に適しているのか、会議などを通じて話し合いをしております。 | プライバシー保護マニュアルは作成されていないが、入職時に研修で学び、日常業務の中でも気を付けている。入浴時の更衣や浴室移動時も、羞恥心に配慮してタオルをかけている。排泄介助時には、トイレのドアを閉めることが日常的におこなわれている。職員の言葉かけはやさしく、言葉使いも丁寧である。職員中心でなく利用者の立場、家族の立場に立ったケアができるよう努めている。 | 入職後のプライバシー保護研修やマニュアル作成をされることを望みます。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 本人の要望や希望は取り入れ、自己決定が出来にくい方は選択できるよう配慮しています。日常のケアの中で思いをくみ取れるよう努めています。 | | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 日々の入居者様とのコミュニケーションを通して、出来る限り要望に応じられるように努めています。 | | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 日常は勿論、訪問美容後や外出先に応じた服装など、身だしなみにきを配るようになっています。外出は現在中止となっております。 | | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 嚥下体操や献立発表を行い、楽しく美味しく食べていただけるよう努めております。一緒に調理や食器洗い出来るご利用者様には一緒にさせていただいております。 | 副食は朝・昼・夕とも業者から届き、温めて提供している。汁物とご飯は、職員が作っている。利用者が調理にかかわることはないが、皿洗いや配膳はできる方に参加してもらっている。呑み込みの悪い方には、とろみや刻み、ミキサー食など、食べやすく加工している。誕生日にはケーキを用意し、好きな献立も提供している。うなぎちらし寿司や冷麺、クリスマスにはピザでバイキング食にしたり、お好み焼きパーティもある。おやつレクリエーションではスイカ割り、敬老会ではおはぎを出して、食でも季節を感じている。プリンアラモードや手作りケーキなど利用者の参加できる範囲で楽しみを見つけている。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食事量・水分摂取量は記録に残し、好みの食事・飲み物などを把握し、提供しています。個々に刻み食や、ペースト食の対応をしています。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 食事前の嚥下体操の実施と、食後は口腔ケアを促し、実行しています。又、毎週金曜日に訪問歯科での口腔ケアも行っています。 | | |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | タブレットの排泄表を利用し、個々の排泄パターンの把握、自尊心に配慮した支援をしています。 | タブレットにて排泄表を管理し、声かけ誘導をしている。車椅子利用の方が多いため、トイレ内は介助しやすい備品の配置である。トイレの入り口の床は、色を変えて場所がわかる。ドアには足元の目立たない所に、カバーで隠した小さなウインドウチャイムを付け、職員に利用者の出入りがわかるようにしている。ベッド上での介助、職員2人での介助など必要にあわせた支援がある。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 排泄表にて個々の排便状況を把握し、なるべく薬に頼らない排便コントロールを心掛けています。内科往診にて状況を伝えさせていただいております。 | | |

京都府 グループホームたのしい家伏見深草 ユニット2

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 曜日分け等、最低限度の入浴日として設定していますが、時間を希望されるご利用者様には希望の時間で支援をしています。声掛けにてお風呂に行きたいと思ってもらえるように明るく対応させていただいております。 | 週2回の入浴日には職員配置を厚くし、午前、午後を使って全員を入浴介助している。職員2人での介助もあるが、シャワー浴(足浴併用)の方が多く脱衣室と浴室の暖房を良くきかせていて、職員は特にヒートショックに注意して介助をおこなっている。浴室内に手すりも多く、シャワーの位置も両方向にシャワーフックがあり介助しやすい。脱衣室は洗濯機コーナーとアコーディオンカーテンで仕切り、プライバシーを守っている。脱衣室から扉一つでトイレにも行くことができる。季節湯や入浴剤は使用していない。入浴前後にポカリスエット各100mlを提供している。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 消灯時間・起床時間は特に設定しておらず、個々の生活習慣に配慮しています。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 個々の服薬を把握した上で、薬情を管理しております。症状の変化の確認・共有に努め、往診医に報告しています。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 個々に得意な家事等のお手伝いなどの役割をもっていただく様に心がけております。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 家族の希望により外出される際はその希望に寄り添う形でよりよい支援を検討しております。職員による外出の際は近くのスーパーや薬局と一緒に往ったりするなど閉塞感の無いように出来る限り努めております。 | 散歩など、日常の外出はあまりできていない。管理者や職員が、近隣の郵便局や薬局に買い物に出かける時に、利用者と一緒に往くなどしている。家族と散歩に行く方もいる。今年は藤森神社に初詣に行き、桜見学もおこなった。在宅に復帰した方で、家族の協力を得て日帰りで自宅に帰宅した利用者がある。 | 健康維持のためにも、外気浴や日光浴は大切です。家族の協力も得て、散歩や日光浴の時間も持たれることを期待します。 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 個々の能力や希望に応じ、お小遣いを自己管理し使う機会をもてるよう支援している方もおられますが預り金制度を利用させていただいております。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 希望に応じ電話や手紙のやり取りが出来るようにしています。携帯電話を所持されている方もおられますが家族様の要望により電話がかからないようにされています。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | なるべく落ち着いた環境で過ごしていただけるよう、配色・電飾の色など配慮しています。季節に応じた風物を飾り、季節感を感じて頂けるよう工夫しています。 | 大きな窓から明るい日差しが差し込み、ベランダには洗濯物が干してある。スタッフルームからはフロアが見渡せる。廊下の突き当りなどにソファや椅子を置き、手すりを持つての歩行練習時に休憩することができる。廊下の壁には、行事の写真がたくさん貼られ、利用者の笑顔がある。車椅子の方が多いため、テーブルに椅子をあまり置かず、食事の時もそれぞれの方が落ち着く場所に車椅子で座っている。大きなホワイトボードに、日にちや献立を書いている。洗面台は、利用者が不穩にならないよう鏡に布をかけ、口腔ケア用品を記名入りのケースに整頓している。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | リビングは広く、個々のスペースを持てるよう配慮しています。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | アセスメントなどで、本人様がどのような暮らしをされてこられたかをお聞きし、本人様の使い慣れた家具や、馴染みのある物を使用して頂き・居心地よい空間で過ごされるよう工夫しています。 | 居室の前にはネームプレートとホワイトボードが設置され、自作の折り紙などで趣向を凝らしている。居室にはベッド、天井までの大きいクローゼット、エアコン、カーテン、ロスナイ(換気扇)が設置され、自分の好みの家具や電化製品の持ち込みがある。寝具は自分の物を使用し、事業所で洗濯している。掃除は職員が2日に1回掃除機をかけて、利用者もクイックルワイパーでの参加がある。部屋の入り口にホームでの一日の流れや入浴日を書いたプリントを貼っている方もいる。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 簡単に様々なものを使用することが出来るよう配慮しています。 | | |